

疾患名

ABO不適合腎移植

病気について

生体腎移植は、腎臓を提供するドナーと、腎臓を提供されるレシピエントとの血液型の組み合わせによって、ABO適合移植、ABO不適合移植に分けられます（下図参照）。ABO不適合腎移植では、移植される腎臓にある血液型を決めている糖鎖（A抗原、B抗原）に対して反応する抗体（抗A、抗B抗体）が、体の中（血漿中）にある場合、その量が多いと拒絶反応が起き、腎機能が廃絶してしまいます。このため、それに対する対策がとられます。ABO不適合腎移植は現在生体腎移植の30%を占めるとされますが、腎生着率、患者生存率はABO適合腎移植と比較して遜色がないとされています。

ドナーとレシピエントの血液型の組み合わせと ABO 不適合腎移植

		レシピエントの血液型			
		O型(抗A抗体・ 抗B抗体)	A型(抗B抗体)	B型(抗A抗体)	AB型(抗体なし)
ドナーの血液型	O型(抗原なし)	適合(一致)	適合(不一致)	適合(不一致)	適合(不一致)
	A型(A抗原)	不適合	適合(一致)	不適合	適合(不一致)
	B型(B抗原)	不適合	不適合	適合(一致)	適合(不一致)
	AB型(A抗原・B抗原)	不適合	不適合	不適合	適合(一致)

ドナーの持つ血液型抗原に対して反応する血液型抗体をレシピエントが持つ場合に、ABO不適合腎移植と呼ばれます。

治療について

腎移植に用いられる免疫抑制薬のほかに、リツキシマブという抗体産生を抑える点滴薬、抗体を除去するために血漿交換療法が用いられます。

アフェリシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェリシス治療の種類：二重濾過血漿分離交換（DFPP）（場合によっては、血漿交換、選択的血漿交換が行われることがあります）

回数：保険適用となっているのは、移植手術前に4回、手術後に2回ですが、必要に応じて増減されることがあります。